



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース32号



## 平成25年度 催し物

今年度から、新しい催し物も始まります。また、夏休みの小学生向けの体験教室も更に充実させました。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物もあります。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日		催し物	受付開始日
月	日・曜		
4	13日(土)	海苔つけ体験 ※定員になりました	3月11日(月)
	21日(日)	海苔つけ体験 ※定員になりました	
	27日(土)	海苔の街魅力再発見 映像上映会	当日先着
5	6日(月・祝)	海苔の街魅力再発見 映像上映会	
	26日(日)	グリーンカーテンを編もう	4月21日(日)
6	16日(日)	あみあみペットボトルホルダーづくり	5月21日(火)
7	20日(土)	貝がら工作	7月11日(木)
	21日(日)	貝がら工作	
	28日(日)	浜辺の生き物探検隊	
8	3日(土)	コースターづくり	
	4日(日)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	
	17日(土)	タペストリーをつくろう	
	18日(日)	自由研究で海苔を調べよう	
	25日(日)	浜辺の生き物探検隊	
9	8日(日)	海苔簀づくり	8月21日(水)
10	12日(土)	海苔のまち歩き	9月11日(水)
11	10日(日)	海苔簀づくり	10月11日(金)
	24日(日)	海苔つけ体験	11月11日(月)
12	8日(日)	海苔つけ体験	11月21日(木)
	21日(土)	海苔つけ体験	
1	12日(日)	海苔つけ体験	12月21日(土)
	25日(土)	海苔つけ体験	
2	9日(日)	海苔つけ体験	1月11日(土)
	22日(土)	海苔つけ体験	
3	2日(日)	海苔つけ体験	2月21日(金)
	15日(土)	海苔つけ体験	

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

申込・問合せ先：大森海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333



# 毎月の催しもの

毎月の催し物の中から、今年度新しく実施するものや注目の催し物などをご紹介します。

## ■海苔つけ体験(10:00~12:00)

生海苔から乾し海苔をつくる体験で、当館の一番人気の催し物です。ぜひ、ご家族そろってご参加ください。当日、乾けば持ち帰ることもできます。



## ■グリーンカーテンを編もう(13:00~15:00)

海苔網の編み方を応用して、紐を使ってグリーンカーテンのネットを編みます。(小学5年生以上)

## ■あみあみペットボトルホルダーづくり(13:00~16:00)

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを持ち歩くホルダーをつくりまします。(小学5年生以上)

## ■夏休み体験学習会(いずれも小学3年生以上)

夏休みの工作や自由研究などにご活用ください。

## \*貝がら工作(13:00~16:00)

自然の貝がらを使って自由な工作をします。

## \*浜辺の生き物探検隊(9:30~12:30 参加費100円)

浜辺の生き物の観察をして、海と私たちの関係を学びます。東京海洋大学の学生が教えてくれます。

## \*コースターづくり(13:00~15:00)

海苔簀編みを応用しヨシでコースターを作ります。

## \*ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう

(13:00~16:00 参加費:100円)

海苔をとるためのベカブネ(テンマ)という舟を、本物そっくりにペーパークラフトでつくります。



## \*タペストリーをつくろう(13:00~16:00)

海苔網の編み方を習って、その網に貝殻やビーズ、リボンなどを飾ってタペストリーを作ります。

## \*自由研究で海苔を調べよう(13:00~16:00)

夏休みの自由研究、海苔づくりや海苔の秘密をみんなと一緒に調べましょう。目指せ、海苔博士!

## ■海苔簀(のりす)づくり(13:00~16:00)

ヨシを使って海苔つけの際に欠かせない海苔簀を作ります。手作り海苔簀で、昔と同じ海苔つけ体験ができます。(小学3年生以上)

## ■海苔のまち歩き(10:00~16:00 参加費100円)

かつての大森の街を写真で振り返り、午後は街を歩いて海苔の名残、大森の魅力を皆で見つけます。

# ミニ・イベント

ミニイベントは、家族連れでお気軽にご参加いただけます。原則、事前のお申込みは不要です。

主催:NPO法人 海苔のふるさと会

## ■絵本の読み聞かせ&公園散歩

季節に合わせた絵本の読み聞かせをした後、公園でお花や生き物を探しましょう。主に幼児対象です。

日にち:毎月第4火曜日

時間:11:00~11:30



## ■ひまわりプロジェクト

みんなで館の周りにきれいなひまわりを咲かせましょう。ひまわりが成長する様子を見に来てね。

耕しの巻:4月14日(日)

種まきの巻:4月28日(日)、5月4日(土)

水やりの巻:種まきから7月までの毎日

(12:00~15:00を除く時間)

種とりの巻:9月14日(土)

※水やり以外は、いずれも13:30~14:30先着順

## ■季節飾りと工作遊び

季節の行事や節句に合わせて、季節の飾りつけと

工作遊びをします。

カブトづくり:4月29日(祝)

、5月5日(土)

七夕飾りづくり:6月30日(日)

貝のおひなさまづくり:2月23日(日)

※いずれも、13:30~15:30

(時間内自由参加)

節句人形や七夕の展示も行います。

## ■貝がらの飾りづくり

小さな貝がらで、ペンダントや飾りなどを作ります。小学生低学年向けの内容です。

日にち:8月10日(土)、11日(日)

時間:13:00~15:00

(時間内自由参加)

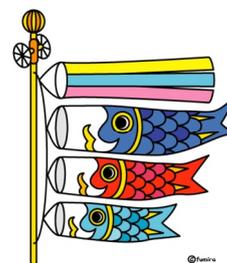
## ■お月見コンサート

3階の展望室にて、満月を愛でながら音楽を楽しみましょう。

日にち:9月21日(土)

時間:17:30~19:00

※小学生以上、要事前申し込み



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」32号

平成25年4月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース33号



公園とふるさと館で  
一日いっぱい楽しもう!

お出かけシーズンになりました。ふるさと館では夏休みに向けてさまざまなイベントを予定しています。また、周辺は公園に囲まれていて、一日いっぱい家族で楽しむことができます。これからのシーズンのおすすめを紹介します。

## 体験しながら学べるよ

博物館では触っちゃいけない?

一階には、特別に昔の道具に「触れるコーナー」があります。海苔の作業用のボータを着て、前掛けをしてザルを持って記念撮影しちゃおう!

他にも、海苔ゲタとフリボウや井戸を動かして、使い方を知ることができます。



海苔のことをもっと知りたくなったら、子ども向けリーフレットで、のり君と一緒に海苔のことを学んでみよう! 不定期で展示案内もしています。

館内には海苔の展示以外にも、魚やカニの水そうや、コアジサシの模型の展示などもあります。

## 遊びや休憩にも

ふるさと館はみんなの憩いの場所。のんびりしたり、休憩したりしてください。

3階の展望コーナーには、公園内唯一の自動販売機があり、お弁当を持参してランチやお茶を楽しむことができます。ここからは、砂浜までの公園を一望できます。テラスには、みんなで手入れをしている花だん。

館入口には昔遊びのおもちゃがあります。お父さんお母さんも子どもと一緒に、コマ回しや竹トンボにチャレンジしてみてください。

外の花だんはみんなで植えたひまわり。7月初め頃に花が咲き始める予定です。水やりのお手伝いをして、ひまわりプロジェクトに加わろう!



## 周辺の公園や施設情報

ふるさと館は3つの公園に囲まれています。

\*ふるさとの浜辺公園—ふるさと館はこの公園の中にあります。30メートルのジャンボ滑り台がスリル満点です。橋の先には400mの砂浜。これからの季節は、磯釣りや生き物観察も楽しめます。

\*平和の森公園—本格的なフィールドアスレチックは子どもに大人気。広場でボール遊び、樹木の中を散歩やランニングなどアクティブに楽しめます。

\*平和島公園—キャンプファイヤーや炊事ができるキャンプ場があります。また、7月からは夏季屋外プールがオープン。区立なので安さが魅力です。



\*ビックファン平和島—複合施設で、温泉、映画館、競艇場、ボーリング、レストランなどが集まっています。スーパーでお昼の買い出しもOK。

\*駐車場—大森ふるさとの浜辺公園駐車場から館まで徒歩1分! 30分100円。

## 夏休みのワクワクイベント!

夏休みには小学生向けの体験教室を多数用意しています。どれも人気のイベントですので、事前のチェックをお忘れなく!

\*小学3年生以上対象(要予約)

「貝がら工作」「浜辺の生き物探検隊」「コースターづくり」「ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう」「タペストリーをつくろう」「自由研究で海苔を調べよう」

7月11日(木)9:00~電話受付開始。先着順。詳細は、ホームページ、大田区報(7月11日号)、おおたの教育などをご覧ください。

\*どなたでも(予約不要)

「貝がらの飾りづくり」8月10日(土)、11日(日)  
「のり検定」7月20日~8月31日(夏休み期間)

# 祝 入館者40万人!

平成25年4月13日(土)、平成20年4月に開館してからの来館者数が40万人を超えました。皆様のご利用、深く感謝申し上げます。当日は公募の海苔つけ体験が行われていたり、ウォーキンググループが来ていたりと終日にぎわった日でした。記念すべき40万人目の入館者は埼玉県吉川市在住の金澤さんのご家族でした。インターネットでふるさと館のことを知り、いらっしゃったそうです。4月22日(月)には金澤さんご家族を改めてお招きし、NPO法人海苔のふるさと会の平林義正理事長から記念品を贈呈し、記念の写真撮影を行いました。

ふるさと館では貴重な海苔の道具を保管、展示している以外にも、



ふるさと館では貴重な海苔の道具を保管、展示している以外にも、

皆様にご愛されて6年目!  
ありがとうございます!

海苔つけをはじめ様々な体験ができます。とくに海苔つけ体験は元海苔生産者の皆さんに直接教えてもらえて、自分の作った海苔はもらえることから大変好評です。最近では遠方から参加する方も増えています。それ以外にも、いつ来てもふるさと館の浜辺に住む生き物が見られたり、昔遊びを楽しむことができます。また、館の前にみんなでヒマワリを育てるひまわりプロジェクト、四季折々の季節飾りづくりや秋のお月見コンサートなど、季節ごとの楽しみもあります。

今後も海苔のふるさと会では、皆さまのご期待に添えるよう、学べて楽しい館づくりを行ってまいります。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。(小山)



## 3階にみんなの花だんができました



今年から3階展望テラスにある花壇づくりを始めました。皆が愛着を持てるキレイな花壇にしていきたいと考え、当館の職員だけでなく、サポーターはまどの会や来館された皆さんと作業を行ないました。

5月19日(日)、NPO法人花とみどりのまちづくりの方々のご指導のもと、来館者の方やはまどの会と一緒に最初の植付けを行ないました。宿根草を取り入れた「ローコスト・ローメンテナンス」な花壇にすることによって、一年中いろいろな花を楽しむ



ことができます。

当日は日差しも強すぎず、適度な風が吹き、作業には最適の天候でした。家族連れの方が多く参加されました。「この花はここに植えようよ!」「ここにはこの色の花を植えたらキレイじゃないかな?」と、来館者の皆さんも相談し合いながら、1つ1つ花を植えていきます。それによって、自分たちで作った花壇、という愛着を感じていたようです。

今後は毎月の花ガラ摘みなどの手入れや、年2回の植替えなどを予定しています。作業の後には花壇のハーブでつくったハーブティーとお菓子でおしゃべり、というアイデアも出ており、皆さんが花壇の成長を楽しみにしていました。

作業には、どなたでも参加できます。皆さんのご参加をお待ちしています。

(平山)

### 次回作業日

6月9日(日)  
15:30~

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」33号  
平成25年6月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

### 海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

## 大森 海苔のふるさと館 ニュース34号

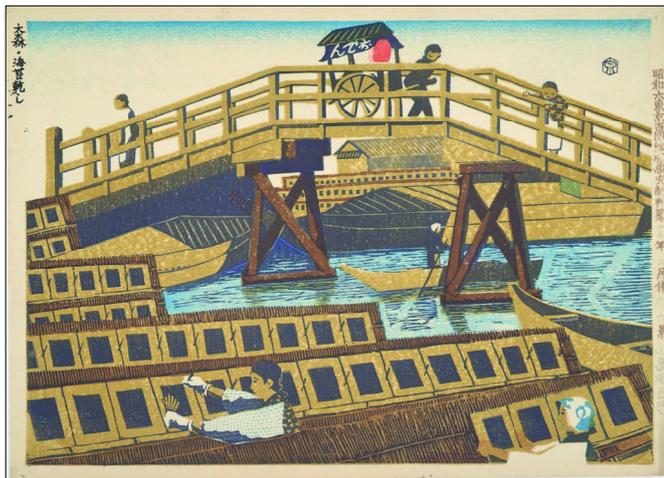
## 企画展 描かれた大田の海辺風景

開催期間：平成25年7月17日(水)～9月16日(月)

東京湾沿岸部の開発に伴う埋立て事業のため、漁業権を放棄して半世紀がたちました。その間に埋立ては進み、私たちにとって東京湾は遠い存在になってしまいました。

そして半世紀がたとうとする昨今、「大森 海苔のふるさと館」や「大森のふるさとの浜辺公園」が整備され、遠い存在となった東京湾を再び身近に取り戻そうとするきっかけが生まれています。

今回は小さな企画ですが、昭和初期ごろの版画や



小泉癸巳男「昭和大東京百図絵版画 大森・海苔乾し」昭和12年



川瀬巴水「森ヶ崎雪後之夕」

絵画から、大森～羽田沿岸部の在りし日の風景を垣間見ようと思います。描かれた風景の場所を昭和初期の地図を添えて探り、合わせて、描かれた風物から何が読み解けるかを、幾つかの作品で試みました。

絵画と当時の地図を併せてみながら、身近な発見をしていただければ幸いです。

なお、今回の企画には、松尾陽作氏より白瀧幾之助の作品展示のご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(大田区立郷土博物館 学芸員 藤塚悦司)

## ご報告

## 海苔のふるさと会が認定NPO法人に！

—ご寄付いただくと税制優遇が受けられます—

海苔のふるさと会は、平成25年5月21日付で東京都より認定NPO法人に認定されました。これは、運営組織及び事業活動が適正で、公益の増進に役立つとお墨付きを頂いたということになります。現在、NPO法人は全国で約4万8千団体ありますが、このうち認定NPO法人は125団体しかありません(平成25年7月)。これもひとえに皆様のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。

今後は、当会にご寄付いただくと税制優遇を受けることができます。寄付金は、①海苔つけ体験など海苔に関する体験、②海苔づくり作業の継承、③自

然や季節に親しむ体験に活用させていただきます。お問合せ、ご質問がありましたら、

\*事務局(5471-0333) 小山まで

お気軽にお尋ねください。

引続き皆様のご支援で、大森海苔のふるさと館の運営を中心に地域の歴史や文化の継承をつうじてより豊かで暮らしやすい社会づくりをおこなっていく所存です。海苔のふるさと会への入会者の紹介やご寄付をいただければ、大変ありがたく存じます。より一層のお力添えのほど、よろしく願い申し上げます。(小山)

## 50年の時を経て 元海苔生産者とカメラマンの再会

ある日、「約50年前、大森で海苔生産の様子を撮影した」という方が、写真ファイルを携えて訪ねてきました。それが日高勝彦さんでした。

撮影したのは昭和32年。当時は、日本大学芸術学部で写真を学ぶ大学4年生でした。卒業研究のために撮影したという写真は、木村伊兵衛を思わせるような、生き生きとした大森の人々が写し出されていました。卒業後は報道カメラマンとして活躍、今は現役を引退し、趣味に没頭する毎日。手元のフィルムを写真集にまとめようと、当館を訪れたのです。

その中に見覚えのある写真が。舟上で海苔を洗う若者の姿は、昨年秋の「海苔の街歩き」の調査の際に、田中武志さんからお借りした写真と全く同じでした。



海苔を洗う田中武志さん

つまり、50年前、日高さんが田中さんに頼んで海苔の舟に乗せてもらい、記念に写真を渡していたのです。

早速田中さんへ連絡すると、田中さんはその時の



左から田中良弼さん、田中武志さん、鳴嶋兼雄さん、日高勝彦さん

ことを覚えていました。「仕事の邪魔になるから舟に載せる人はあまりいない。写真を撮りたいという大学生や大学の先生を何度か載せたよ。」

また、海苔つけなどの指導をさせていただいている鳴嶋兼雄さんも写っていることが分かりました。



中央の男性が鳴嶋兼雄さん

そして、5月、元海苔生産者の田中武志さん良弼さん兄弟、鳴嶋さん、撮影をした日高さんがふるさと館で約50年振りの対面を果たしました。アルバムには、自らの若き青年の姿、知人の顔、当時の作業の思い出、貴船掘の風景、お祭りの様子。3人は懐かしそうに目を細め、まるで昨日のことのよう当時の様子を語ってくれました。

4人が50年振りの再会を果たしたのは、偶然が重なったことです。私たちにとっても、まだカメラの普及率が高くなかった時代に、生き生きした写真が残されていた謎も解け、写真に関する新たな情報も知ることができました。

現在、日高さんは写真集の編集の最終段階とのこと。完成が待たれます。

私たちは、ふるさと館が人々の出会いや再会、発見、感動の場になることを願っています。ぜひ、ささいな情報や一枚の写真でも構いません。情報をお寄せ戴き、また館へ足をお運びいただければと願っています。

なお、下の弟さんの田中信輔氏にもご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。(五十嵐)

**認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」34号**

平成25年8月1日発行

編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

**海苔のふるさと会  
会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース35号

## 企画展 大森ふるさとの浜辺公園の渚の生き物 ～再生された海辺の環境と生き物の移り変わり～

開催期間：9月18日 (水) ～平成26年3月16日 (日)

都内で初めての区立海浜公園として平成19年4月にオープンした「大森ふるさとの浜辺公園」は、今では街の中の身近な渚として四季折々の表情を見せるようになり、親しまれています。

すでに開園して6年が経過し、公園風景が日常になじんでくると、公園が整備された経緯や、施工の特色なども紹介されることが少なくなってきました。そこで今回は、海浜公園が出来るまでの経緯と、園内のなぎさの生き物の二部構成で、「大森ふるさとの浜辺公園」を紹介いたします。

第一部は、公園施工の経緯を、区民参加の計画から、実際の施工までを紹介します。

第二部は、施工前から定期的な実施し、開園後も継続してきた生き物や水質の調査を、その調査データと標本で紹介いたします。



今回の企画開催にあたりましては、調査を継続的に実施してこられた東海大学教授 木村賢史氏にご協力をいただきました。調査データの分析を基にしたパネル製作や標本作りには、木村教授の指導学生の皆さんが携われました。また、公園整備の経緯や施工については、携われた五洋建設株式会社のご協力をいただきました。

多大なご協力をいただきました皆様に、末筆になりますが御礼申し上げます。

(大田区立郷土博物館 藤塚悦司学芸員)

### 貴船堀に残る水門跡

かつて、貴船堀は海苔の船の河岸でした。

海苔生産が終わり役目を終えると、昭和40年代に埋め立てが始まりました。樹木を植え歩道が整備され、昭和55年には貴船堀緑地としてオープン、人々の憩いの場所に生まれ変わっています。

一変した風景の中に、当時の水門跡が今もひっそりと残っています。この水門は、昭和30年ころ、河岸の整備に伴って設置されました。台風などで大水になると、水門の中に船を入れ、扉を閉めて被害を防ぎました。水門は20cmほどの厚さの木の扉で、観音開きになっていました。満潮になると海側の水圧で扉が開けられなくなるので、気になって様子を見に行ったそうです。船の管理はとても手が掛かり、大事なことだったといいます。

普段は、清い水の中に多くの魚が泳いでいました。夏には子どもたちの格好の遊び場となり、水門の橋から飛び込んだり、魚を捕まえたりしたそうです。(五十嵐)



# 海苔の観察事業 ヒビ建て・支柱建て作業

いよいよ、海苔づくりの準備の季節に入りました！！  
今年、ふるさとの浜辺で、当時の養殖風景の再現と生産技術の継承に取り組んでいます。

1日目の10月17日は、元海苔生産者の指導の元、東京バイオテクノロジー専門学校（以下、東京バイオ）の学生と職員が、竹ヒビを建てる作業と海苔網の支柱を建てる作業を行いました。



10/17 ヒビ建て作業

岸の近くでは、元海苔生産者の鳴島光吉氏の指導の元、東京バイオの学生と先生、職員が、海水に浸かりながらヒビ建て作業を行いました。海上では、元海苔生産者の中村博氏の指導の元、協力者と職員が船上より支柱建て作業をおこないました。支柱を建てる時には、海底に穴を開ける必要があります。そのため、昔は支柱を1本1本、人の手で海底に建てていましたが、今回は水圧ポンプを使って穴を開けました。ホースの先端に取り付けた細長いノズルからポンプで汲み上げた海水を勢いよく噴射させる



10/17 支柱建て作業

ことで、硬い海底に瞬時に穴を開けることができます。このポンプを使ったことで作業効率が飛躍的に高まったのと同時に協力者への負担も軽減できました。結果、この日に建てた支柱は海苔網2枚分になり、砂浜から竹ヒビを正面に見て、南側と北側にそれぞれ1枚ずつ海苔網が張れる十分なスペースを確保できました。翌日の体験学習の竹ヒビを数本残してこの日の作業を終えました。



10/18大森第一小学校の体験授業

2日目の18日は、大森第一小学校3年生3クラスがヒビ建て作業を体験しました。元海苔生産者と東京バイオの学生のサポートを受けながら、クラスごとに児童1～2名ずつが体験しました。「振り棒が重たい」「水が冷たい」「貝が採れた」「海苔作りは大変」など普段、授業では体験できない学習の時間を持つことができ、大変充足感が得られたようでした。

当館では今回のヒビ建て・支柱建て作業などの体験事業を通じて、海苔に関する学習の場として館内のみに限らず、浜辺での観察会などにも取り組んでいきたいと考えています。

今後の予定は、海苔網を張る作業です。一日でも早く、海苔の生育に適した海水温に下がり、海苔の季節になることを今から心待ちにしています。

(高橋)



**特定非営利活動法人 海苔のふるさと会** 会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」35号

平成25年11月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

**海苔のふるさと会 会員募集中!!**

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース36号



新年ご挨拶

平林 義正

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には館発展の為、大変ご尽力頂いておりますこと心から感謝申し上げます。

昨年四月に末館者が四十万人に達し、その四十万人目の入館者に記念品を差し上げました。海苔つけ体験学習を始め館独特の諸事業を五年間重ねて来ました。NPO法人として運営組織及び事業活動が適正で、公益の増進に資すると認められ、東京都から「認定NPOの法人」と定められました。今後館への寄付は税金面で優遇されるなど利点が加わり、館発展の足がかりが付きました。これは皆々様のお力の賜物であり嬉ばしいこと、感謝しております。

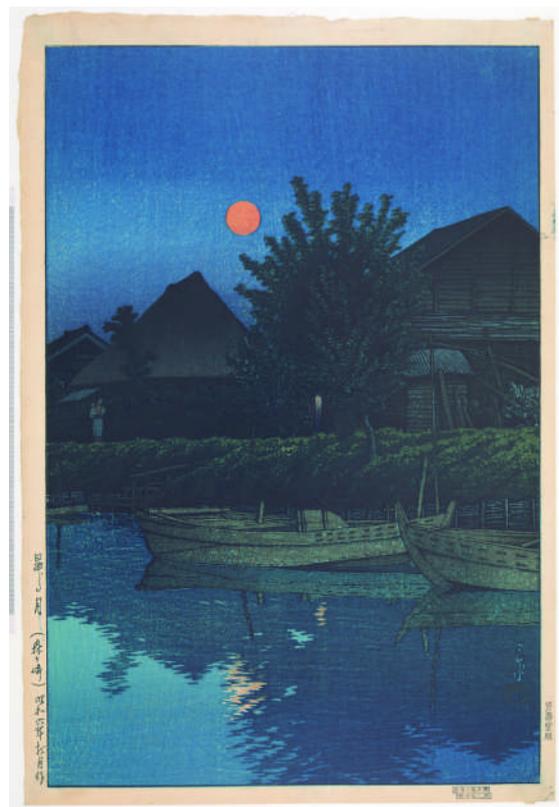
大田区民犬学地域学講座にも協力させて頂く等、二十五年は館職員の積極的働きにより充実した館の運営が出来ました。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 理事長)



<上>川瀬巴水肉筆 森ヶ崎の雪後之夕 昭和7年か  
<右>川瀬巴水版画 昇る月(森ヶ崎)昭和6年10月



大田区立郷土博物館  
特別展「川瀬巴水一生誕130年記念」  
会期：3月2日（日）まで  
（この2点の展示は1月19日（日）まで）  
入館無料／月曜日休館（年始は1月4日より開館）



# 去年はこんなニュースがありました！

— 本年もよろしくお願ひ申し上げます —



4月

## 来館者数が40万人に！

開館から5年1カ月で、来館者が40万人を超えました。役員、大田図書館長より、40万人目のご家族に記念品を贈呈しました。



5月

## 東京都より認定NPO法人に認定

東京都より、海苔のふるさと会が、運営組織及び事業活動が適正で、公益の増進に資すると認められました。当認定NPO法人に寄付すると税金の優遇を受けられるようになりました。

5月

## 海苔生産者と60年振りの再会

約60年前、大森の海苔生産風景を撮影した方が、当館の情報を元に生産者と再会。インタビューや調査を重ねて写真集を出版されました。

(撮影：日高勝彦)



10月

## 区民大学地域学講座に協力

大田区教育委員会主催「おおた区民大学」の大森について学ぶ地域学講座（全6回）において、平林理事長及び職員が「大森村の今昔」「大森の郷土芸能」の回の講師を務めました。講座終了後の自主活動にも、引き続き協力をする予定です。

通年

## 浜辺の海苔観察を実施

ふるさとの浜辺公園において、伝統技術の継承と昔の浜辺景観の再現を目的に、協力者とともに浜での竹ヒビ建て、海苔網張りなどの作業を行っています。また、小学校の体験授業にも協力しています。

通年

## テレビ・ラジオ、雑誌などで紹介

- 1月13日 TBSラジオ「安住紳一郎の日曜天国」
  - 2月 角川マガジン『蒲田ウォーカー』
  - 2月19日 『ジャパン・タイムズ』（英字新聞)
  - 6月 『散歩の達人 京急MOOK』
  - 7月 JCN「なぎら健壺のカメラ散歩」
  - 12月10日 月刊『文芸春秋』
- ※他にも多数紹介していただきました。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」36号

平成26年1月1日発行  
 編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
 連絡先 東京都大田区  
 平和の森公園2番2号  
 TEL 03-5471-0333  
 FAX 03-5471-0347

### 海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース37号

## 海苔の観察事業 海苔養殖風景の再現

かつて大田区の海には海苔を育てるための竹ヒビや海苔網が見渡す限り広がっていました。すっかり海が埋立てられた現在では、昔の様子を想像することも難しくなっていました。そんな昔の風景を再現すべく、ふるさとの浜辺に元生産者の皆さんと一緒に竹ヒビと海苔網を冬の間設置しています。夏から行なってきた再現までの作業を紹介します。

### 1、アク抜き作業(8月7日)

アク抜きは、竹ヒビに使う竹を一ヶ月ほど海水につけて油分を抜く作業です。竹を2~3本束ね、さらにそれを5~6束にしたものをまとめて海底に沈めて秋を待ちました。



### 2、ヒビ揚げ・ヒビごさえ作業(9月6日)

海に沈めておいた竹を引き揚げ、いよいよ竹ヒビにします。細かい枝がたくさん出ている竹の上部にさらに枝をつけて枝振りをよくするのがメインの作業です。こうすることで海苔がたくさんつくようになります。他にも竹が海中で浮かび上がることを防ぐために竹の節を抜いたり、海底から竹ヒビが抜けないように荒縄のアゴと呼ばれる返しを針金で固定したりします。

この日の作業には近隣小学校の3年生児童23名も参加しました。元生産者の皆さんは、初めて見る小学生にも分かるよう工夫しながら説明と実演を行いました。



今回の作業で余った竹や荒縄の端材を体験の記念にと持ち帰る児童も見られ、貴重な学びの機会になりました。

### 3、竹ヒビのヒビ建てと支柱建て

(10月17日、10月18日)

そりと呼ばれる最大干潮にあわせて、竹ヒビと海苔網の支柱を建てました。振り棒という道具を使って海の底に穴をあけ、そこに素早く竹ヒビを差し込みます。昨年に引き続き東京バイオテクノロジー専門学校の生徒が竹ヒビ建てを体験しました。海苔網の支柱は船から水圧ポンプを使って穴をあけて建てました。2日目には近隣小学校の3年生87名が見学を訪れ、波打ち際で竹ヒビ建ての作業を体験しました。



### 4、網張り(11月24日、2月13日)

今年は千葉県で種付け、冷凍保管された海苔網を張り出しました。10月に建てた支柱に網を固定する作業です。現在の生産地で行われているのと同じ



「重ね張り」という、網を複数枚重ねて張る方法で張りました。翌2月には11月に張った網を新しい網に替える張

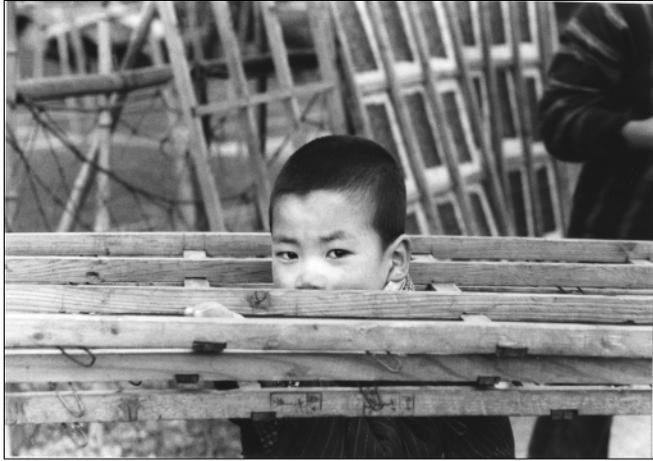
り替えを行ないました。

今シーズンは塩分濃度の低下、降雨、降雪など複数の要因が重なり、海苔の収穫には至りませんでした。しかしながら、網の張り替え時にはわずかですが竹ヒビに生き残った海苔を確認することができました。改めてノリの生命力の強さを感じる結果となりました。(小山・高橋)

# 写真展 大森 海苔漁の原風景

～確かにあった東京大森の海苔漁師の暮らし～

開催期間：平成26年3月18日 (火) ～7月21日 (月祝)



ニュースでも何度かご紹介した、日高勝彦氏が昭和30年代に撮影した大森の海苔生産と人々の暮らしの写真展を開催します。

当時、日高氏は日本大学写真学科で学ぶ大学生。

その後、報道写真家として日本各地取材した実力を感じさせる生き生きとした写真です。

## 初公開写真！

当時は高度経済成長が始まり、町や暮らしが変化していった時代です。自分の住む大田区にこのような風景が存在しているのかと新鮮な驚きを感じたそうです。

展示する写真は、全て今回が初展示となります。多くの方々に、当時の海苔のまち大森の息遣いを感じてもらい、確かにあった海苔漁師の暮らしを知っていただければ幸いです。

また、写真に写っている人や場所などにお心あたりのある方の情報もお待ちしております。

■会場 当館2階企画展コーナー



## 桃の節句の祝い

三月の節句には、どんなお料理でお祝いしますか？料理には、昔からその地域で伝えられてきた味があります。

大森では、桃の節句のお祝いには、白酒、あられ、五目などを用意しました。ちらし寿司とは言わず「五目(ごもく)」といいました。酢飯にレンコン、干びょう、シイタケ、卵、インゲンなど、五種類の具を入れて作ります。

五目は、桃の節句だけではなく、節句、お盆、彼岸、祭りなど、特別な際に作ったそうです。干びょう

うは、祝い事には食紅で赤に色付けし、仏事にはアオ(緑色)に色付けしました。

あられは、餅を細かく刻んで天日で干し、油で揚げて作りました。

今と比べると華やかさはないかもしれませんが、手間を掛けて作るその家の味は最高のご馳走かもしれませんね。

(まこ)

(お話：元海苔生産者の鳴島光吉さん)



### 松岡修造の いしん坊万才

3月10日 (月)

21:54~22:00 フジテレビ

大森の海苔漁師が海で食べていた、懐かしの海苔巻きとは？  
ふるさと館と地元の元海苔生産者が登場します。お楽しみに！！

認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森 海苔のふるさと館ニュース」37号  
平成26年3月1日発行  
編集・発行 認定特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



## 海苔のふるさと会 会員募集中!!

海苔のふるさと館をより良い施設にするために、ご協力いただける方を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。